

バス路線「土沢線」の路線維持について

バス路線「土沢線」につきまして、本年4月に岩手県交通株式会社から、令和5年9月30日をもって廃線する意向である旨通知がありました。

岩手県交通（株）は、花巻市が運行経費の赤字額を補てんする場合には、令和6年3月まで岩手県交通による運行を継続する意向であり、これを受けて市は、令和4年10月から令和6年3月までの赤字額補てん分の運行補助金の補正予算を6月市議会定例会に追加提案いたします。

経緯

- ・岩手県交通（株）からは、これまで高速バスや貸切バスの収益により維持を図ってきたバス路線について、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大幅に減少し、現在においても高速バスの利用者が回復せず経営状況が厳しいこと、また、運転士の処遇改善やそれに伴う経費の増加により、路線維持が難しくなっていることを理由に、東和地域から花巻地域への幹線バス路線「土沢線」を、令和5年9月30日をもって廃線する意向である旨通知があったものです。
- ・市としては、運行の継続を申し入れしましたが、岩手県交通（株）からは花巻市が令和4年10月から令和6年3月までの想定赤字額を補てんすることを条件として、令和6年3月までは継続して運行することも可能ではあること、ただしその場合にあっても、令和6年3月31日をもって廃線とする考えであることとの回答がありました。
- ・なお、岩手県交通（株）からは、県内他市町のバス路線についても令和5年9月30日をもって廃線する意向である旨の通知をしている状況であると伺っています。

路線の概要

- ・土沢線は、花巻市地域公共交通網形成計画において、花巻地域と東和地域を結ぶ幹線路線として位置付けており、計画期間内は路線を維持することとしています。

【経路】

- ・雲南桜（東和地域）と宮沢賢治記念館などの観光施設や新花巻駅を經由し、花巻駅を結ぶ路線

【便数】

- ・平日：17便（イトーヨーカドー発9便、雲南桜発8便）
- ・土日：8便（イトーヨーカドー発4便、雲南桜発4便）

【利用実績・補助金額】

年度	輸送人員 単位：人		欠損額 単位：円		補助金額（国・県） 単位：円		補助金額と欠損額の差 （赤字額）単位：円	
	実績	増減	実績	増減	実績	増減	実績	増減
H30	45,844	-	▲ 13,741,015	-	4,396,000	-	▲ 9,345,015	-
R1	51,010	5,166	▲ 13,575,341	165,674	4,372,000	▲ 24,000	▲ 9,203,341	141,674
R2	25,382	▲ 25,628	▲ 17,408,543	▲ 3,833,202	10,341,000	5,969,000	▲ 7,067,543	2,135,798
R3	19,791	▲ 5,591	▲ 16,741,487	667,056	10,648,000	307,000	▲ 6,093,487	974,056
R4	41,345	21,554	▲ 13,680,604	3,060,883	6,562,000	▲ 4,086,000	▲ 7,118,604	▲ 1,025,117

路線維持の考え方

【運行継続】

- ・岩手県交通（株）の通知のとおり、令和5年9月30日での廃線となった場合、一定の利用がある状況での突然の廃線は、地域住民や観光客などの利用者に混乱が生じることが想定されること、また仮に土沢線に替わる代替交通を運行するとしても、その検討や準備等の時間が短いことから、市といたしましては、土沢線を維持するため、赤字補てんの想定赤字上限額18,991千円の補助金を補正予算で計上し、令和6年3月31日まで運行を継続する間に、令和6年4月以降の代替交通の検討を行いたいと考えています。

【代替運行事業者】

- ・東和町総合サービス公社を想定し、運行に向けた協議を始めています。

【代替運行方法】

- ・運行方法は、これまでの土沢線の時間帯別や停留所別の利用実績などを分析した上で、東和町総合サービス公社、東北運輸局岩手運輸支局との協議を踏まえ設定したいと考えています。
- ・岩手県交通（株）では、高木団地と花巻駅までを結ぶバス路線「高木団地線」のうち数便を、新花巻駅まで延伸する検討がされていることから、それを踏まえた運行方法も検討します。

これまでの利用促進の取り組み

- ・土沢線は、宮沢賢治記念館周辺施設と花巻新渡戸記念館、萬鉄五郎記念美術館に繋がる唯一のバス路線であるため利用促進策として、平成30年8月からバス利用者に対し、これらの施設の入場料を減免する「土沢線利用者証」を配布しており、一定の利用がある状況です。

【配布対象者】

バス停留所「賢治記念館口」、「札長根」、「新渡戸記念館入口」、「土沢中町」で降車した方

【利用実績】

R1：4,407人、R2：1,633人、R3：1,763人、R4：4,043人

路線維持に向けた要望活動

- ・このままでは幹線路線を含む市内のバス路線がさらに廃線となるおそれがあるものと捉えており、また、バス事業全体の継続のための支援も必要ではないかとも考えられることから、市内バス路線の維持を図るためには、市が個別路線の赤字分を補助するにとどまらず国、県、市町村が共同して、運転士の確保支援を含めて、岩手県交通（株）の経営を支援していく必要があると考え、そのような観点から、岩手県市長会の要望活動において、国土交通省をはじめとした中央省庁、政党幹部に対し、バス路線の維持のためには赤字補てんの補助にとどまらず、路線バス運行事業者の人員確保を含めた経営支援が必要であるとして、それに関する国の支援を求めています。
- ・岩手県に対しましては、県内他市町とともに「県民が必要とするバス路線をどのように維持していくか岩手県交通株式会社の経営に対する支援を含めて、岩手県交通（株）及び関連市町村と協力して検討を行い、バス路線維持計画を策定すること」、「国に対し、バス路線維持のための財政的支援について働きかけいただくこと」などについて要望しています。

今後想定される予算

- ・令和5年6月補正 赤字補てん補助金 18,991千円
- ・令和5年9月補正 既存車両の改修（運賃箱、車両修繕）、車両購入費
- ・令和6年当初予算 代替交通運行経費補助金